

高等部後期現場実習を終えて

高等部3年2組 N.S

私は後期現場実習で、福島市にある「奥飯坂穴原温泉 有限会社吉川屋」で10日間実習をさせていただきました。仕事内容は調理補助、客室清掃です。

調理補助では、重箱を並べたり、食材の盛り付けをしたりしました。調理室内は機械の大きな音が響いているので、相手に聞こえるように大きな声でコミュニケーションをとることを心掛けました。

客室清掃は2人組で行いました。私は主に窓、机拭き、掃除機掛けを担当しました。お客様が来る前にたくさんの客室を清掃しなければならなかったため、とても忙しかったです。改めて協力しながら作業することの大切さに気付きました。

卒業後も学ばせていただいたことを発揮できるよう、残りの学校生活も頑張っていきたいと思います。

高等部2年3組 N.Y

11月9日（月）から20日（金）までの10日間、アクセスホームさくらで後期現場実習をさせていただきました。初めての校外実習ということで、楽しみな反面、「作業で失敗したらどうしよう」という不安もありました。しかし、職員の方が一日の予定や作業のやり方についてわかりやすく説明してくださったので、安心して取り組むことができました。作業を間違えてしまったときに報告をすると、「どこが間違っていたのか」や「どうすれば良いか」を丁寧に教えてくださり、その後、間違わずに作業できるようになってうれしかったです。また、休憩時間には、職員や利用者の方が話しかけてきてくれました。最初は緊張してしまい、上手く話ができなかったのですが、少しずつコミュニケーションをとれるようになりました。

今回、初めての校外実習を経験して、毎日、集中力を切らさず働くことがとても大変なことだとわかりました。事業所のみなさんと作業できて、とてもよかったです。

高等部2年担任 鈴木 秀騎

今回、2年生は後期現場実習が初めての校外での実習でした。授業や生活態度を振り返り、自分で設定した目標を達成しようと一生懸命取り組む姿が見られました。生徒にとって、とても充実した貴重な10日間だったと思います。

反省会の際に企業、福祉事業所の方から働く上で必要なことについて、『元氣な挨拶をすること』、『最後まで取り組むこと』、『素直に聞くこと』が大切であるとお話をいただきました。他にも大切なことはたくさんありますが、この3つがどの企業や事業所でも共通しているものでした。当たり前を感じることもあります。基本が大切だと感じました。

校内ではサービス班を担当しました。保護者への実演会だけではなく、教員や他の作業班の生徒へ笑顔で接客することができました。相手の立場になって考えることはどの作業班、仕事でも大切だと思います。おもてなしの気持ちをもって接客することができていて素晴らしいと思いました。

来年は卒業後の進路について具体的に考える時期がやってきます。様々な経験を通して、やりたいことや夢をもって、今後生活してほしいと思います。

高等部3年担任 引地 真澄

3年生にとって、11月の後期現場実習は卒業後の進路を決定する大切な実習です。今年度は、新型コロナウイルス感染防止による前期現場実習の中止に伴い、この後期現場実習にける意気込みは大きく、一人一人が緊張感をもって実習に臨みました。今回の実習で強く感じたことは、普段の学校生活で身に付けてきたことがいかに大切だったか、ということです。どの実習先でも共通して評価の基準として言われた事柄が3つあります。一つ目は、挨拶・返事・報告を大きな声で言えること、二つ目は、指示や助言に素直な姿勢で受け答えすること、三つ目はどのような仕事に対しても嫌がらずに一生懸命取り組むことです。学校生活3年間で、こつこつとこれらを身に付けてきた3年生は、確実に進路実現に向けて歩みだしました。

案外あっという間に過ぎる高等部の学生生活を、目的意識をもって過ごすことが、未来につながっていることを実感します。残りわずかな学校生活を、生徒一人一人に向き合いながら、進路実現のために支援していきたいと考えています。

中学部後期現場実習を終えて

中学部3年1組 S.S

11月9日から20日まで校内実習がありました。
ぼくは、家庭生活班でコースター、そうきん、アクリルたわしをつくりました。自分からほうこく、そう
だんすることを目標にがんばりました。

2週間たいへんだったけど、自分から「できました。」
「ざいりょうをください」ということができました。
先生のはなしをきいてゆっくりミシンをやりました。
まがらないようにそうきんをぬうことができてうれし
かったです。みんなに買ってほしいです。

高等部に入学できたら、とうげい班でコップとおさ
らをつくりたいです。

中学部3年2組 O.R

11月9日から20日まで校内実習がありました。
私は紙工班で紙すきや油取り作りをしました。

頑張ったことは、時間を守って仕事をしたこと
です。また、丁寧に仕事をするのを頑張りました。
特に頑張った仕事は紙すきです。

大変だった仕事は装飾の仕事です。特に油取り
作りで袋詰めしたあとに、麻ひもを使って蝶結び
とりボン結びをするのが難しかったです。

高等部に入学出来たら、悩んでいます陶芸班
に入りたいです。

中学部教諭 萩原 瑞姫

11月9日（月）～20日（金）の10日間、校内実習を行いました。中学部では木工班、家庭生活班、紙工
班の3つの作業班に分かれ、木工班では花台の製作を行い、家庭生活班では、コースター、ガーゼマスクの製作
を行い、紙工班では、メモ帳やぼち袋、ポストカード、油とりの製作を行ってきました。

「長い時間集中して取り組むこと」「丁寧な言葉遣い、あいさつ、返事、報告ができること」「準備や片付けに
自分から取り組むこと」「丁寧に製品を作ること」などの目標を立てて、働くとはどのようなことかを意識して
活動しました。

実習を終えた生徒たちは、長時間の活動を体験し、働くことの厳しさや、丁寧に作った製品がたくさんできる
喜びや達成感を得られたことと思います。普段の作業学習では経験できない貴重な体験ができました。新たな課
題も発見する機会ともなりました。今後は、自分の目標や課題に向けてさらに努力を続けていって欲しいと思
います。

保護者進路研修会に参加して

高等部保護者 野地 政司

去る12月8日に『福祉サービス事業所から就労への課題』ということで、「ジョブ・サポート笑心」さんの奥野
大亮所長の講演を聴講しました。

親の知識を深める意味もあって興味を持って参加させていただきました。Aさんの事例として、大学を卒業して会社
に就職するも、その後うつ病の診断を受け休職し、復職を目指し笑心を利用され、転職（再就職）するまでの経緯につ
いて紹介されました。（Aさん：幼少期に発達障がいと軽度知的の指摘あり）親の影響もあって事務系の会社を選んだ
が、実際は体を動かしての仕事が合っていることが分かり、笑心さんの支援を受けながら再就職することが出来た・・・
という内容でした。

ここから思うことは、子どもの職業選択について、親の希望ばかりを優先しすぎると、子どもの作業適正についての
判断を誤り、無理な就労をさせては将来挫折してしまうということだと感じました。

自分の子どもは、先日「就労アセスメント」を受けたばかりですが、【就労移行支援】か【就労継続支援A型】か【就
労継続支援B型】のどれが適正なのかの判断が付きません。親の役割として、職業適性を見極め、本人の職業選択の意
欲を高めていきたいと思います。